

日本国際ボランティアセンター(JVC)・シェア＝国際保健協力市民の会(SHARE)共同プロジェクト

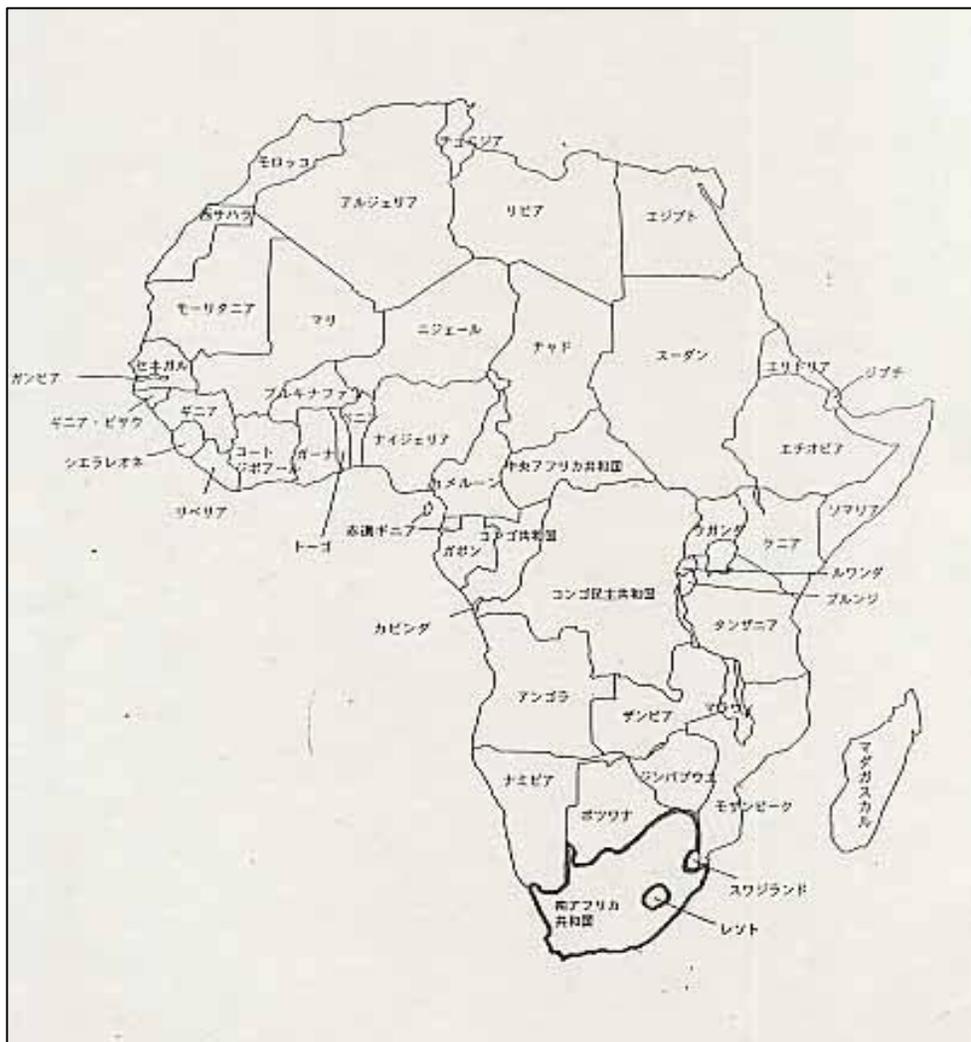
南アフリカ共和国

住民参加型HIV/AIDS予防啓発及び感染者支援強化プロジェクト



発表者:JVC 渡辺直子

活動対象地



アフリカ大陸地図



南アフリカ共和国
リンポポ州ベンベ郡マカド地区24村

活動の5本柱

■ ボランティアによる在宅介護 (Home Based Care; HBC)

→ ケアギバー (介護をする家族) へのアドバイス

感染者だけでなく、寝たきりの人などの介護。

村の状況についてモニタリング、報告。

■ 予防啓発ボランティア (Peer Educator; PE) の予防啓発活動

→ 劇や資料配布で、HIV/AIDSの正しい情報を伝える。

■ 遺児およびケアが必要な子どもの支援

→ 食料配給、子ども向けワークショップ・キャンプ開催。

在宅介護ボランティアがケア。

■ HIV陽性者によるサポートグループミーティング

→ 感染者自身による自助グループ。

治療に必要な情報交換や、悩みを相談できる。

■ 家庭菜園

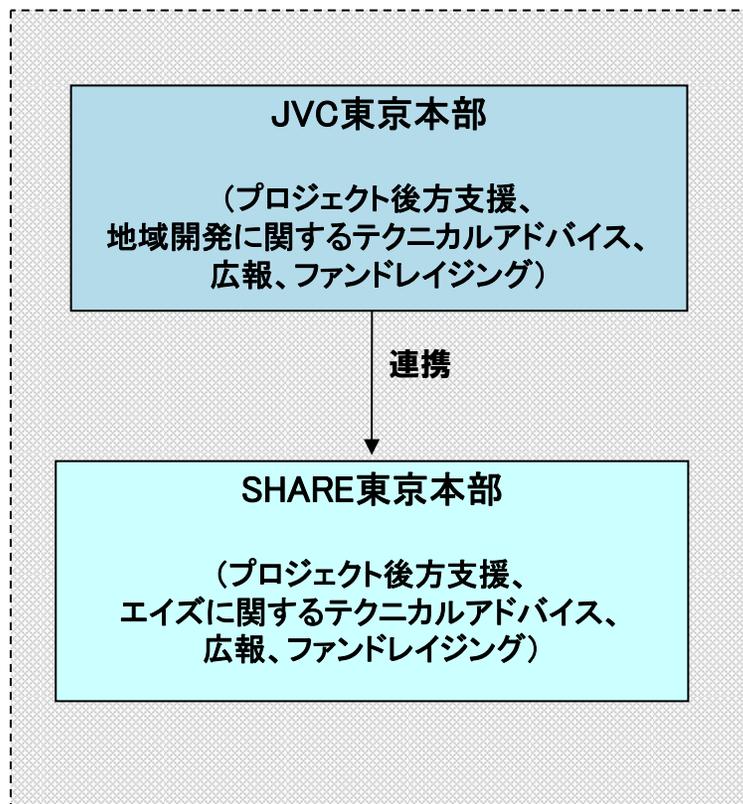
→ 栄養状態を保つ。治療を受けるにも体力が必要。



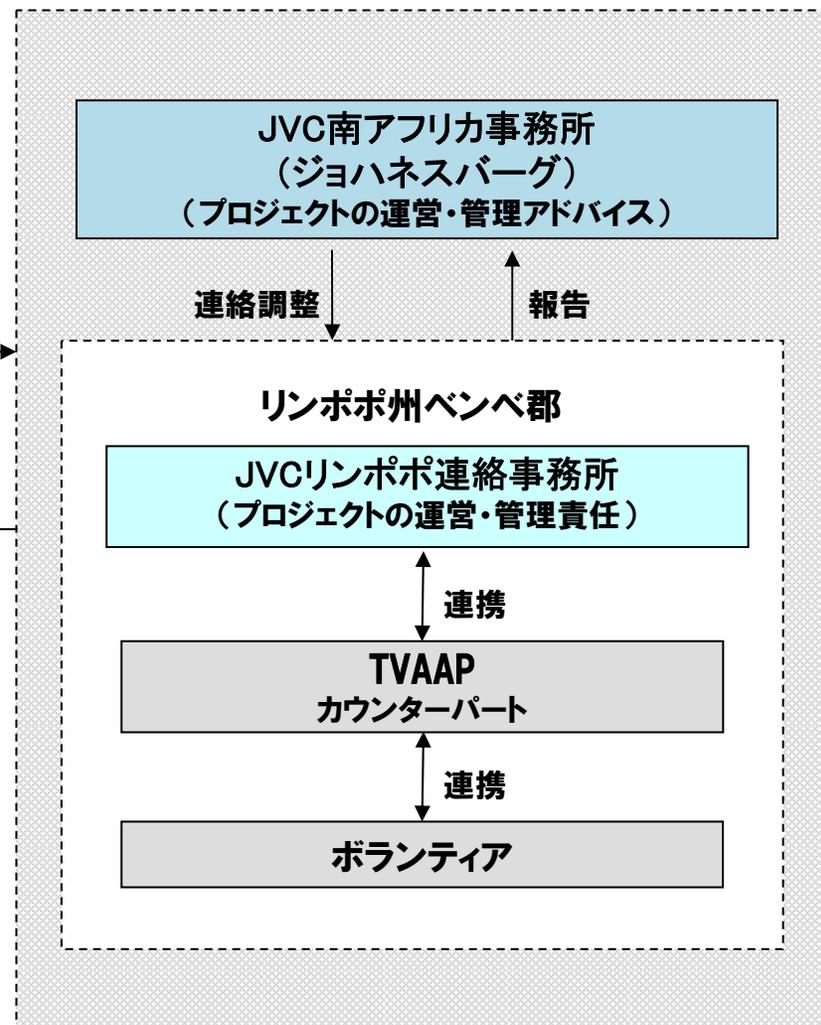
コミュニティに根ざした地域開発活動と患者のケアという保健医療活動という側面

事業実施体制

＜東京＞



＜南アフリカ＞



連絡調整

連絡調整

報告

報告

連携

連携

ボランティア

経緯：両団体の特徴

2004年度、はじめはJVC、SHAREともに独自で、
南ア／南部アフリカでのHIV/AIDSプロジェクトの可能性について調査



<JVCの特徴>

- 1991年以来、南アフリカで15年間、
難民支援、農村開発、CBO(住民組織)の支援
→地域開発に強い
- ソマリア、エチオピアなどアフリカでの経験
- しかし、HIV/AIDSの分野で経験なし

<SHAREの特徴>

- タイ、カンボジアなどアジアを中心に保健医療
分野で活動
→現在は、HIV/AIDSへの取り組みが中心
- しかし、アフリカで地域開発の経験なし(緊急支援はあり)



アフリカ、地域開発に強いJVC
と
保健医療、特にHIV/AIDS分野に強いSHARE
が連携することに

<利点>

- 両団体の特徴を活動に生かせる
→相乗効果

<課題>

- 役割・資金分担のあいまいさ
→プロジェクト開始後10ヶ月経ち、落ち着きつつある